

超音波検査（エコー）

超音波検査は有用かつ手軽な検査で、多くの医療機関で様々な体の部位の検査として使われています。検査部位にゼリーを塗り端子を当てる検査のため、痛みを伴わない検査です。妊娠中に赤ちゃんをチェックするのにもよく使われます。

尿路感染症を認めた児には、腎尿路異常や膿瘍形成などがいないか積極的に行うべきとされています。

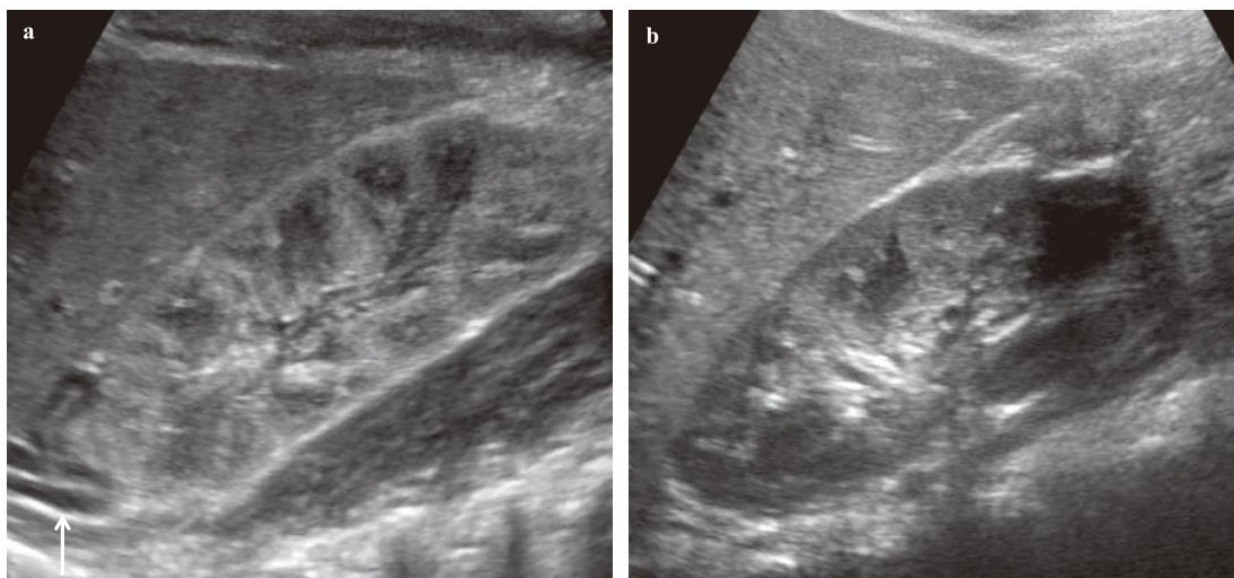


図2 超音波検査でみる年齢による腎の変化

a：出生直後：腎皮質の輝度は高めで、髄質が目立つ。腎の頭側に副腎を認める(矢印)。

b：1歳時：腎皮質の輝度は低エコー化し、成人とほぼ同程度に変化している。

宮坂実木子：腎疾患の画像診断， 小児腎臓病学 改訂第2版． 日本小児腎臓病学会（編）， p115， 診断と治療社， 2017